

令和二年十一月一日発行（毎月一回一日）  
書象 第六十八卷 第十一号 通巻七八〇号

# 書 系



私たちが「日本の書道文化の  
ゴネス「書形文化遺産登録」を  
応援していきます。



日本書道芸術協会

2020- 11

## 卷頭 言

### 日展への想い

理事長代行 内藤望山

日展作品の制作を終えて、出品をされた会員の方々は安堵と共に解放感に癒されていることと思います。今年はコロナウイルス感染防止のため読売書法展が順延となりました。そのまま日展作品の制作に移行された会員が多く、また例年なく初出品者が多数見られました。初挑戦者が多数現れたことは、書象会にとりまして大変喜ばしいことあります。

日展は、日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の五部門からなる、わが国最高峰の総合美術展であります。中でも出品点数から書部門が最も厳選となっています。他の書道展とは比較になりません。二度の審査員で経験しましたが、生命力のある表現作、古典の上に個性を重ねた作等々が高い評価を受けていました。厳しい審査を通り抜けるためにも、鍛錬に鍛錬を重ね技術と表現力を高めなければなりません。指導者が一番望んでいる課題で、厳しい批評を受けたと思います。前回指導された課題の改善に努力を重ねられたことと 思います。

日展制作を通して、身近な目標を掲げて努力する一方、仲間と良きライバルであれば一層両者共々向上することになります。初挑戦者はこれまでにない緊張感と刺激を受けたことでしょう。出品することにより習得した経験は、その人にとって大変貴重な財産になったことに違いありません。

一九七六年日展「山光照我」

上條信山先生書





虚心高潔を秉る

11月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

・文字の中心、横画の  
方向に注意し、空間  
を美しく保つ。  
・背勢を意識し、引き  
締まった線で書く。



稠禪師。  
稠公禪慧通靈。戒

出品券を貼付  
11月20日必着

軒  
冕

軒

冕

冕

冕：上部は口（けいがまえ）の中に横画を二本引く。はね、払いの方向を意識して伸びやかに。

軒

軒：偏と旁の組み合わせ方をよく観察する。

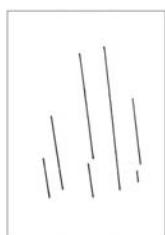
・縦画、横画の方向、長さに気をつけて文字の形を正確にとらえたい。

・筆をしっかりともち、大きな運筆を心がける。

仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書

・全体構成は左図参照。  
右下への流れ、空間  
に留意したい。



「いそが(可)ず(寸)」

「あ(佐)らま(万)し」

「あとより(利)よ」

「の(能)むら」

いそが(可)ず(寸) あ(佐)らま(万)し  
あとより(利)よ の(能)むら

いそが(可)ず(寸) ば(八)ぬれざ(佐)らま(万)しを旅人の(能)  
あとより(利)晴るる(ノ)野路の(能)むらさめ(免) (太田道灌)

11月20日必着  
出品券を貼付

仮名規定【仮規】(級位)

上條信山先生書

みねみ(美)どりつ(徒)き(支)か(可)げ(介)た(多)に(二)

み  
ね  
み  
ど  
り  
つ  
き  
か  
げ  
た  
に

み  
ね

み  
ね

「み  
ね」

「み(美)どり」

「つ(徒)き(支)か  
(可)げ(介)」

「た(多)に(二)」

・二字連綿、三字連綿  
は、一文字を書くつ  
もりで一気に書きた  
い。  
・なるべくにじむ紙は  
避け、仮名用半紙を  
使う。

・少量の擦った墨を水  
でうすめて書いた方  
がのびやかな線が表  
現でき、墨色もよい  
でしよう。

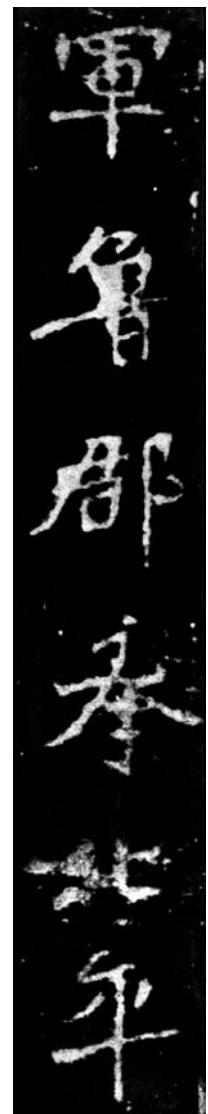
研 究【研究】

「張猛龍碑」 臨書

釈文 退玉



軍魯郡丞北平



\*どちらか一体を出品してください。

11月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

退玉

田中節山先生書

軍魯郡  
丞北平

山口啓山先生書

今月のポイント

- ・「退」は運筆の速度と線の太さを意識する。
- ・「玉」は横画の角度に注意する。

今月のポイント

- ・伸びやかな線質を心がける。
- ・点画は力強く書きたい。



山寒くして古道凍る

- ・全体的に画数が少ないので墨量を多くし、肉太の線で書きたい。
- ・長い横画、左右の払いはのびのびと。
- ・「山」「道」はP14参照。

条幅隨意【条隨】

中村巍山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



風ハ竹舎ニ生ジ 清詠ニ和シ 水山亭ヲ抱イテ 故サラニ曲流ス

(蘭亭)

- ・様々な概形の漢字の間に片仮名をうまく入れて調和させる。
- ・漢字の大きさは控えめにする。
- ・片仮名の線を漢字と同じように鋭く強く書く。

敬業堂

中学一年規定  
〔学毛〕

荻田光山先生書

敬業堂

中学二・三年規定  
〔学毛〕

市澤靜山先生書

文 化 日

小学五年規定【學毛】

大島破山先生書

正 仁 藝 素

小学六年規定【學毛】

杉山曉雲先生書

山川風水

小学三年規定【学毛】

恩田靜月先生書

洞白二字

小学四年規定【学毛】

柳澤玄嶽先生書

小学一年規定  
【学毛】

畠中高山先生書

學毛

小学二年規定  
【学毛】

藤森大節先生書

學毛

## 硬筆規定

生涯のうち常に同一の（能）目的を持た（多）な（那）人は（者）その生涯に（二）お（於）いて（氏）終始一貫した（多）一個の（能）人間となり得ない（アウレリウス）

上條信山先生書

生涯のうちに常に圓滑的を極め、  
人をもてまわし、おもむく後悔無し。

「個々に向むかへ得なり。（アーネスト）」

一般規定【硬】(級位)

藤岡月華先生書

北海道にすむシマフクロウは、翼を  
広げると百八十センチもある世界最  
大級のフクロウです。

中学規定【学硬】

樋口玄山先生書

柿の落葉がしつとりと露にぬれ  
ている。今朝の冷え込みにはもう  
冬の気配が漂う。

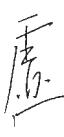
## 小・中学生随意課題【学隨】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。  
出品券を貼付して下さい。

### 手本解説

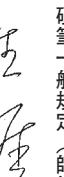
・基本 「虚」「秉」「潔」は左図参照。



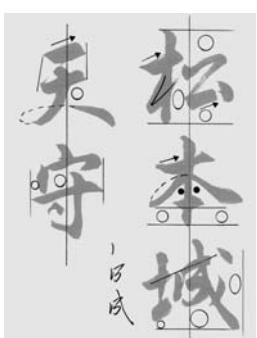
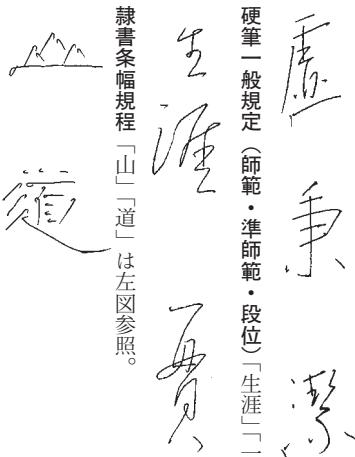
小 一・二年 学	木
中 三・四年 学	市場
中 学	絵巻

### 手本解説

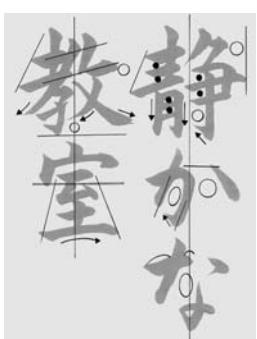
・硬筆一般規定 (師範・準師範・段位) 「生涯」「一貫」は左図参照。



### 学生部規定



中学二・三年



中学一年

行書では筆脈を意識し、点画の連続も運筆に緩急をつけてリズムよく書くことを心掛ける。墨継ぎも一字で書き回しを止めずに、始筆、終筆では丸みを帯びた筆使いで書くようとする。

「静」の四画目の横画は左に長く出し、月の左右の縦画は垂直に。「教」は偏と旁のバランスに気をつけ、最終画を伸びやかに払う。「室」は冠と至の重心を揃え、四画目は「」の中に入れる。

学校のクラブ活動で、協調性や責任感などが身につくと言わされました。

名前  
支部 年 級段

小学三・四年規定【学硬】  
竹内藍山先生書

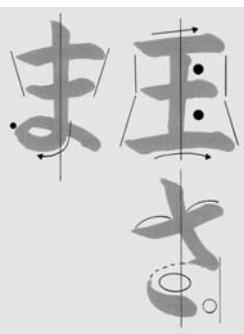
文化の日に有名な画家がかいた絵のてんらん会に行きました。  
名前  
支部 年 級段

小学一・二年規定【学硬】  
関香風先生書

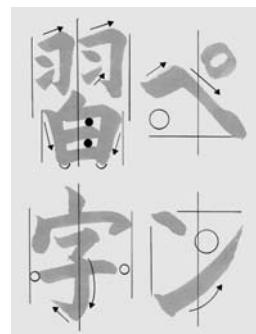
み	ま	で	か	学	校
ま	し	か	り	の	の
し	た	た	た	と	と
た	。	。	本	し	よ
。	なまえ	なまえ	を	か	よ
	支部	支部	、	か	ん
	年	年	きゅう	よ	ん
	きゅう	きゅう	うん	うん	うん

\*出品券を貼付して下さい。

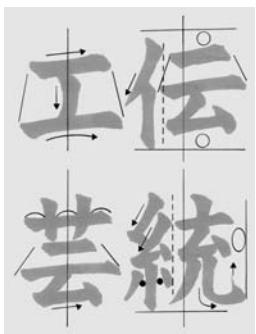
一般(師範・準師範・段位)・一般(級位)・中学生はペン使用のこと(中学生は鉛筆も可)。小学生は鉛筆使用のこと。作品の大ささ→たて18cmよこ7cm 小一・二課題→2.1cm中のマス目の紙を使用する。小三・四・五・六課題→2.1cm中の罫線を引く。



小学二年



小学四年



小学六年

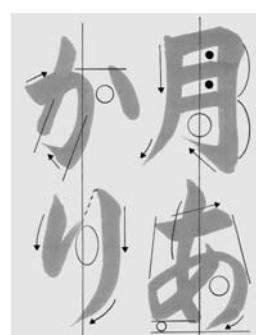
「ま」は三本の横画の長短・間隔に注意する。「さ」は二・三画目の筆脈を意識する。「王」の縦画は横画の中心あたりから書き、結びは穂先を整えてまとめる。

「ペ」の最上部は中心よりも左に。「ン」は始筆の位置に気をつけ、二画目は丸みをつける。「習」は白の左右の縦画は丸み側に向ける。「字」は「ノ」を最大幅とし、内の二画目は右にふくらみを持たせる。

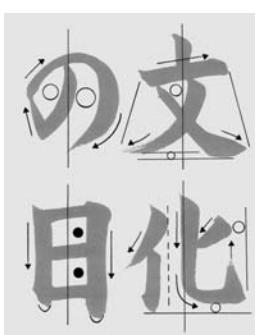
「工」は「工」の冠の縦画は横画を三等分し、五画目を最大幅とする。「伝」は云の上下に余白をもたせる。「統」の偏は細長く、最終画はねの上部はあける。「芸」は三画目を最大幅とし、上に少しそらす。「芸」の冠の縦画は横画を三等分し、五画目を最大幅とする。



小学一年



小学三年



小学五年

「ほ」の一画目は左にややふくらみを持つ。「ん」の外形は右上に向かって払う。は右上に向かって払う。

「月」の一画目は途中までは垂直、空間は下部を広く。「あ」の二画目は左にふくらませ大回り部分は横広に。「か」の二画目はほぼ中心で曲がり、「画」と平行に。「り」は縦画の位置と角度に気をつける。

「文」の左右の払いの始筆は浅く接し、四画目の垂直部を長く書いてから曲げる。「日」は中心線上から書き始める。「日」は縦長を意識し、左右の縦画は垂直に。

古典研究シリーズ ④⑨ 【古典】

始し  
平へい  
公こう  
造ぞう  
像ぞう  
記き

太和二十二年（四九八年）

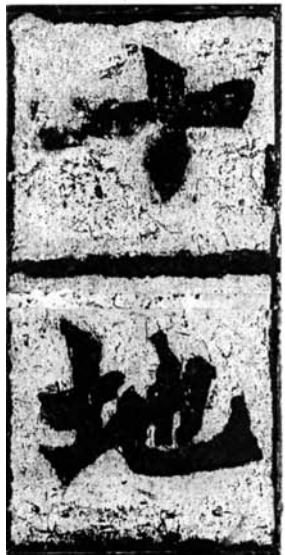
今月のテーマ

写実的臨書  
大字（二字）



玄照

太代



十地

摩尋



太和

石像

書き方

- ①文字数は二字。左の4つの中より選んで書いて下さい。
- ②落款を入れて下さい。
- ③作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）

〈ポイント〉

- ・起筆を鋭く深く入れ込み、太く強靭な線を表現する。
- ・はね、払いは最後まで力を抜かず大胆に。
- ・左払いを長く強調したり、縦画を少し傾斜することでおバランスな文字構造となる。
- ・線の圧倒的な強さ、太さで文字中の空間をうめるように書きたい。

「書業六〇年記念上條信山作品集（一九八九年）」その3

①李太白詩『月下獨酌』（一九五七年）縦一七〇cm 橫六八cm  
〈都會的な風情〉



①李太白詩『月下獨酌』



②『波濤』



参考 〈『隸書入門』と基本点画〉

江川碧潭風の隸書から脱皮して信山バリ隸書を確立するまでには、師風に徹するところから始まっているのだろう。この間に古典の臨書から栄養を吸收しながら、無駄を取り除いたスピード感ある信山独特的隸書の姿を見せる流れが、ハッキリと読み取ることが出来る。一九四三年の魏徵詩「述懷」、（一九四二年発行の上條周一著、『隸書入門』を参考までに）そして一九八三年『節臨孔宙碑』と白楽天詩『琵琶行』がそれである。含墨と豊潤な雰囲気が明快にして都会的で新しい。

②『波濤』（一九八六年）縦一三九cm 橫六九cm

〈碎ける波の音〉

波打ち際に立つて、厳しい風と泡立つ水しぶきを体感しているようである。自然の驚異があるがままに受け入れる作者が目に浮かんでくる。松本美術館では先生の揮毫の姿がビデオで見ることが出来る。「波」と「濤」のさんざいの形や、扁旁構造における「引き締め」と「広がり」の工夫は流石である。特に墨の飛び散る方向に目をやりたい。たっぷりと筆に含まれた墨は、大きな腕の動きから右上方から左へ激しく打ち込まれると同時に、右上部右真横に跳んでいる。まさに視覚的表現であり、絶妙な響きさえ感じさせる。凄い迫力！

③陸放詩『楼上醉歌』（一九八〇年）縦六六cm 橫六六cm

〈そよ風が吹き抜ける〉

中心になる行は四五行目になるのだろうが、ここには見采えのする派手なパフォーマンスは見られず地味である。むしろ「邀月醉々」や「剣光射月」という魅力的な語句が目に飛び込んでくる。円形という空間の中で、興味深いのが伸びやかに引かれた縱棒である。右へ左へと下方に向かってさらさらと吹く優しい風のようだ。細めな線で力みなく、筆鋒を利かせた歯切れの良い書きぶりである。自然な墨継ぎと相まって軽妙にして瀟洒、品位の高い作品である。

（副理事長 二瓶嶽風）

# 令和元年度春季昇段級試験・師範・準師範・特待生昇格試験特集

師範 静 渋谷 静秀

彌山が弱い生物でも、その力を一つの目的に集中して、何をも手に入れようが、これがもたらす満足感は、岩をつくつ。

伸びやかで緩急のある運筆は見事。筆脈があり、流れも自然で心地よい。名前の大さき、位置もおさまりが良い。

彌山が弱い生物でも、その力を一つの目的に集中して、何をも手に入れようが、これがもたらす満足感は、岩をつくつ。

テンポ良く軽快に書けた秀作。やや字間は広めながら、一貫した筆脈と巧みな大小の変化によって自然にまとめ上げている。

師範 大象 五島 千春

最も弱い生物でも、その力を一つの目的に集中して、何をも手に入れようが、これがもたらす満足感は、岩をつくつ。

一字一字丁寧に集中して書けた。文字の大小や行の流れなど、細部まで意識できている。やや小ぶりに書くことで品良くまとまった。

特待生 練馬 山畠 愛菜

大麦や小麦の茎を短く切りとって吹くと、やわらかな澄んだ音色が楽しめる。麦笛という。

点画の書き方は基本に忠実で、字形にも安定感がある。行の中心も通っており、全体のまとめ方も素晴らしい。

準師範

長翠 今福 揚光

最も弱い生物でも、その力を一つの目的に集中して、何をも手に入れようが、これがもたらす満足感は、岩をつくつ。

字形や行間の処理など、手本に忠実に表現できている。硬い線や筆脈の途切れた箇所があるので、さらに精進してもらいたい。

準師範 倭 川岸里里沙

彌山が弱い生物でも、その力を一つの目的に集中して、何をも手に入れようが、これがもたらす満足感は、岩をつくつ。

テンポ良く軽快に書けた秀作。やや字間は広めながら、一貫した筆脈と巧みな大小の変化によって自然にまとめ上げている。

特待生 練馬 山畠 愛菜

大麦や小麦の茎を短く切りとって吹くと、やわらかな澄んだ音色が楽しめる。麦笛という。

点画の書き方は基本に忠実で、字形にも安定感がある。行の中心も通っており、全体のまとめ方も素晴らしい。

特待生

皓花 小田 悠愛

線質は行書の特徴を備えているものの、筆脈の意識は改善の余地あり。字形の捉え方や余白のとり方が申し分ない。



長翠 五段 今福 揚光

特待生 竹華 大山 繁夏

彌山が弱い生物でも、その力を一つの目的に集中して、何をも手に入れようが、これがもたらす満足感は、岩をつくつ。

テンポ良く軽快に書けた秀作。やや字間は広めながら、一貫した筆脈と巧みな大小の変化によって自然にまとめ上げている。

特待生

湊 務台 敦也

大麦や小麦の茎を短く切りとって吹くと、やわらかな澄んだ音色が楽しめる。麦笛という。

特待生

有虹 生形真里奈



元気はつらつとした書きぶりが印象的である。やや楷書的な筆使いを残しながらもそれを補て余りある線の豊かさがある。

力強く伸びやかな線が光る作。勢いでなく配列を意識して書き方ができていける点は注目に値するボイント。

師範



杉 牧野 蘭庭

伸びやかな切れのある線で、爽やかに仕上げた。確かな用筆法がいかんなく發揮された秀作である。

師範



聖 井口 碧瑠

碧瑠

重厚で雄大、骨力も十分で力強く懐の広い作品に仕上がった。筆の運び方も良く、味わい豊かな秀作。

準師範

游墨 周藤 文界



文界

腕がよく動き、線にスピード感が出て力強い作品になった。まとめ方もよく、筆者の異なる発展を期待したい。

師範



穆森 百瀬 白水

一点一画にゆるぎがなく、逆筆がよく効いた強い線質が素晴らしい。字形も良く立派な作品に仕上がった。

師範

玄心 真島 玄穂



玄穂

確かに書きぶりで、スケールの大きな作品となつた。構造の広さが明るさと伸びやかさを際立たせている。

準師範

中野 藤澤 悅華



悅華

腕がよく動いて大変伸びやかに書けている。全体感も良く、細部まで心が行き届いた鍛度の高い作。

# 第五十二回全国学生書道展募集規定

主催 日本書道芸術協会（書象会）

応募資格 大学生・高校生・中学生・小学生（幼稚園・保育園児の出品も可）  
作品寸法 半紙 33・3×24・3cm ただし対幅・横書きは認めません。  
出品点数 一人何点でも出品できます。

※ただし同一内容の作品を複数出品することは不可とします。

作品内容 語句・書体とも自由（書象誌の月例課題でも可）※表装不要

※「洗濯で落ちる墨」は表装した際に滲んでしまうので、使用しないでください。

出品料 1点500円

※同封の払込用紙を使って、郵便局より払い込んでください。

受付期間 二〇二一年三月一日（月）～五日（金）

※三月五日（金）作品必着のこと。

送り先 〒一八〇一〇〇〇一 東京都武蔵野市吉祥寺北町四・三・六

書象会 全国学生書道展事務局

TEL ○四二三一（五三）九七四三

作品各個について中央審査員が厳正公正に行います。

審査 審査の結果、優秀なものに次の賞を授与します。

○個人賞

信山先生記念賞………副賞・賞状

日本書道芸術協会大賞………副賞・賞状

日本書道芸術協会準大賞………副賞・賞状

全日本書道連盟奨励賞………副賞・賞状

○団体賞

最優秀団体賞………副賞・賞状

優秀団体賞………副賞・賞状

○最優秀指導者賞

推薦書象賞……………副賞・賞状

特選……………副賞・賞状

金賞……………副賞・賞状

銀賞……………賞状

銅賞……………賞状

入選……………賞状

### 成績発表

① 第五十二回全国学生書道展会場（国立新美術館）にて、金賞以上の入賞者を発表するとともに、上位賞作品を展示いたします（一〇二一年六月一〇日～一〇日）。

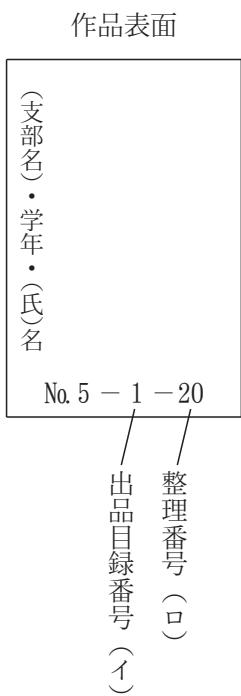
② 会期後、書象誌にて、金賞以上の受賞者名を、推薦書象賞以上は受賞者名と作品写真を発表いたします。その他については賞状の発送をもってかえさせていただきます。

③ 書象会ホームページでの上位賞作品の写真・受賞者氏名・団体名の掲載を予定しています。

会期中に上位入賞者を対象とした表彰式を行います。日程などの詳細は決まり次第、ご案内いたします。  
なお、第五十二回全国学生書道展は第六〇回書象展との同時開催です。ぜひ会場へ足をお運びください。

### 出品上の諸注意

(1) 作品の表面左下に鉛筆で「出品目録番号」と「整理番号」を必ずご記入ください。



- (2) 「出品目録」は必ず本展所定のもの（十二月に各支部宛に発送予定）をご使用ください。また作品とともにお送りください。
- (3) 展示作品は、裏打ちした状態で返却いたします。その他の出品作品は返却できませんので、ご了承ください。

特に優秀な団体の指導者には、副賞を授与します。

# 現代臨書大系

## 第三卷 中國III 北魏・隋

表現的臨書(B)

〈北魏・張猛龍碑〉 上條信山

※表現的臨書A：線質に主觀を加える  
※表現的臨書B：形に主觀を加える

2回目となる今回は、上條信山先生が張猛龍碑の中の『脱』の字を、様々な表現方法で臨書した作品をご紹介いたします。



張猛龍碑より  
「脱」

印象的臨書



〈自解〉

技巧を捨てて、印象をさらっと捉えてみた。

写実的臨書



〈自解〉

対象の形をなるべく正確に捉え、向量的に重厚、しかも動きと強さの充実した点を求めてみた。



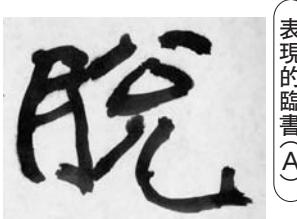
表現的臨書(A)

〈自解〉  
長鋒筆を用い、細い線で、リズム感を持たせてみた。



表現的臨書(A)

〈自解〉  
形を変えないで、線に変化を与えるため、羊毛筆で、細太をつけて書いてみた。



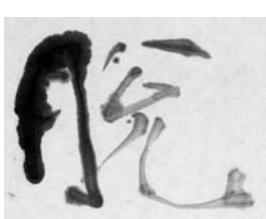
表現的臨書(A)

〈自解〉  
柔らかい筆を垂直に立て、藏鋒でゆっくり運筆し、重厚感を出してみた。



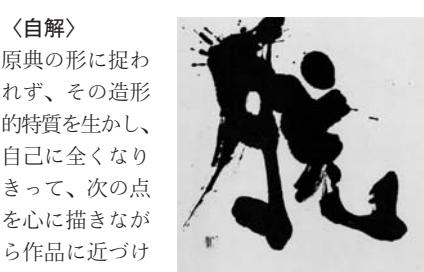
表現的臨書(A)

〈自解〉  
竹筆を用いて強い線を出してみた。



表現的臨書(A)

〈自解〉  
上質の画仙紙に羊毛筆を用い、墨色に変化を持たせ、静かな雰囲気を出してみた。



表現的臨書(B)

- 1 静かさの表現
- 2 強さと速さをなるべく表面に出さず、内蔵させるようにした
- 3 重厚であること
- 4 明るく近代的であること
- 5 品位を高く



〈自解〉  
扁を高くしてやや傾斜を持たせ、旁をかなり下部にさげた造形にしてみた。上質画仙紙にたっぷり墨を含ませ、緩急に意を払った。



表現的臨書(B)

〈自解〉  
縦の動勢を捉え強調した。明るさ、軽さを失わないよう、画仙紙に羊毛の柔らかい筆を用い、スピードをつけて一举に書いてみた。

## ベルリン・森鷗外記念館での「吉見松香書展」

二〇一九年十一月、新宿スペースゼロで開催された吉見松香展から約一ヶ月後の本年一月十七日から五月十五日の間、ベルリン・森鷗外記念館で吉見松香書展が開催されました。森信三創刊「教育の在り方」を探求する月刊誌『実践人』九月号に、その概要が掲載されました。書展の企画から開催にいたるまでの苦労や会期中の様子などを抜粋して紹介します。

二〇〇四年、教職を終えた年に記念館との出会いがありました。「開館二〇周年・墨書コンクール―鷗外―」という新聞の記事で応募した書が最優秀作品に選ばれ、作品は記念館の外壁に飾られています。「人間が一生のうち逢うべき人には必ず会える、しかも、一瞬早過ぎず一瞬過ぎない時に。」という言葉があります。それが、二〇〇四年だったのでしょう。企画をされた方が、「行く行くは森鷗外が私達に残しているメッセージを、吉見さんに書で表現し発信してほしい。」と思っていたところに、二〇一七年、私の方から書展をしたいと申し出たことで二人の思惑が一致したのです。

鷗外作品に精通していない私は、鷗外像を求めて図書館通りを始めました。鷗外のまわりには、詩人、歌人、小説家、学者等のジャンルの違う人が常に集まっていました。「明治の時代に、もし森鷗外がいなかつたら、日本の文学はここまで発展しなかつただろう。」と言われ、文学界を牽引していました。鷗外。ここから導き出される鷗外像は「光源」だと思いました。

書展に向けて企画書を提出するも、「もっと精神性の高いものを」と言わ

れ没に、さらに第二案もまた没に。ドイツ人に響く言葉はドイツ人に選んでもらつた方がいいと思いギブアップ。送られてきた言葉は、ほぼ漢字・仮名交じりの言葉でした。大きな挑戦となりますのが、篆書、隸書、楷書、行書、草書、仮名すべての書体で表現したいと思いました。私に大きなエネルギーを下さったのが、鷗外の孫にあたる小堀鷗一郎様でした。鷗外と同じく医師として今も活躍中の方で、油が切れそうになるとお会いして下さり、制作の進捗状況を聞いてもらい、紙の色のヒントもいただきました。作品の内容に合わせて紙や墨の色を工夫し、一つ一つの作品作りを楽しみながら進めることができました。

作品の一つに「西洋文化の眼を以って東洋文化を観察して、彼を我に移して、我的足らざる所を、補う。」という言葉があります。つまり、鷗外のような意識をもって、この書展が「東西文化の橋渡し」的な一翼を担う役割をしていたとすれば、嬉しい限りです。

二〇二〇年一月十六日、開幕日は会場に入りきれないほどの来場者でした。企画者から「ヤッタ！吉見さん、素晴らしい！」というメール。また、「すばらしい！とても印象的！見事な素材！眼の御馳走！」「文字とその配置による芸術作を堪能できる稀有な喜び。私的な作品を優雅に表装展示。ありがとうございました。」「すばらしく奥深く、インスピレーション溢れる書展！美学、文学そして熟練の融合に感謝。」などドイツの方から嬉しい感想を頂戴しました。私自身の歩みを振り返りながら、この書展のテーマであった「百折不回：何度も失敗しても諦めないこと」を心に深く刻みました。

上條信山先生は「日本の書芸術は、世界に通用するものである。」と言わ

れ、先生ご自身が各国で個展をされ、日本の書の芸術性の高さを発信されていましたことを思い出します。ワークショップの際、「私はこの言葉を書きたい。」と先生の『剣光』の作品のコピーを持ってこられた方がいました。先生が発信されたことが根付いていることを実感しました。こんな素晴らしい発見をすることができただけでも、ベルリンでの書展が意義あるものだたとと思っております。



優雅な表装の展示が並ぶ



鷗外記念館での書道教室



はじめての団扇の作品を手に持って



鷗外像を2文字で揮毫

## 基本帖による学習

前号に引き続き基本帖の紹介をしていきます。

今回は「隸書基本帖」、「調和体帖」、「信山書法基本帖」の三冊です。

### 隸書基本帖

〈隸書基本点画〉



2頁



1頁



5頁



4頁



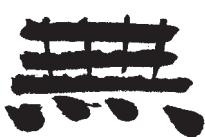
3頁



20頁



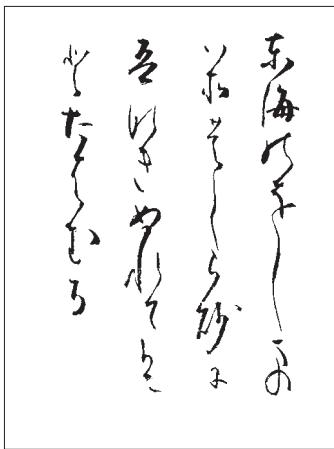
19頁



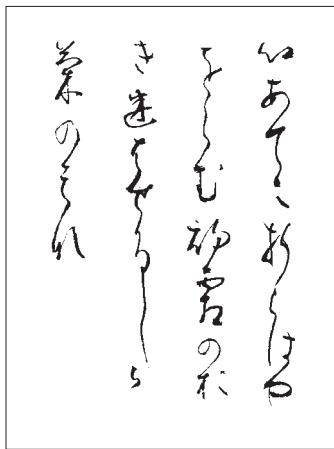
18頁

調和体帖

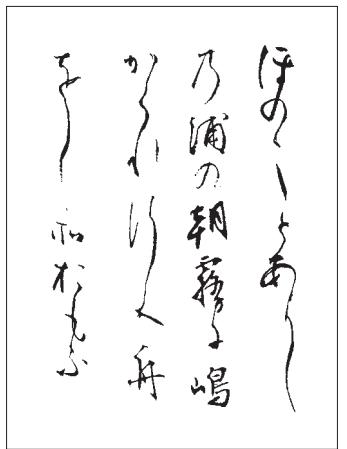
〈短歌〉



5頁

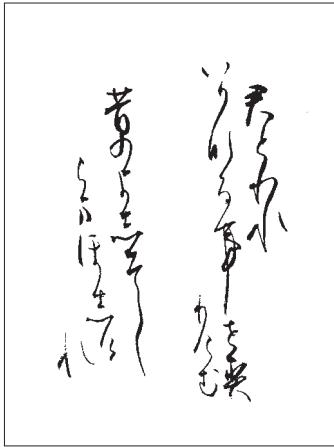


4頁

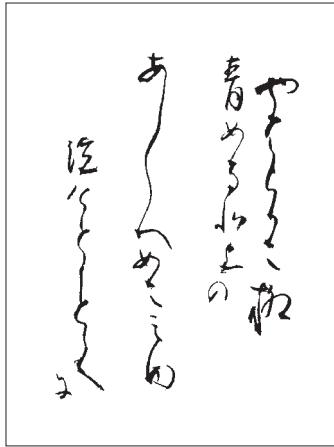


1頁

〈俳句〉



13頁

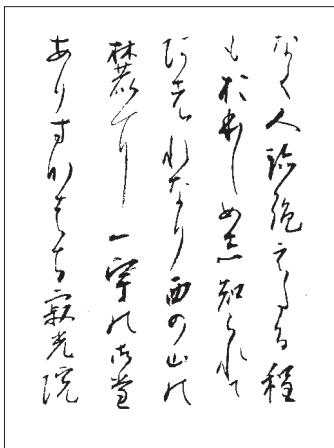


12頁

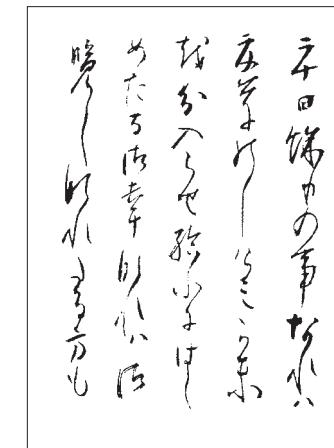


7頁

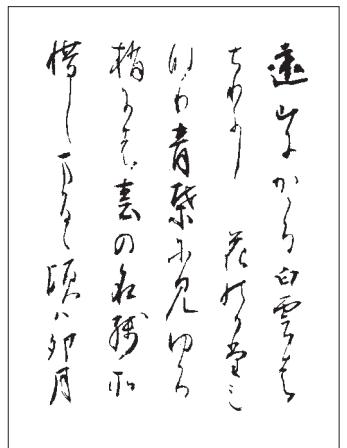
〈大原御幸〉



17頁



16頁



15頁

# 信山書法基本帖

## 〈序文〉

九成宮醴泉銘は整齊の美の極則といわれているもので、水平 平行 垂直 等分割 左右相称などの楷法の基本原理が、厳格に示されている。張猛龍碑はこれに対し、整齊の美の原理原則を否定した極めてアンバランスなものとなっている。

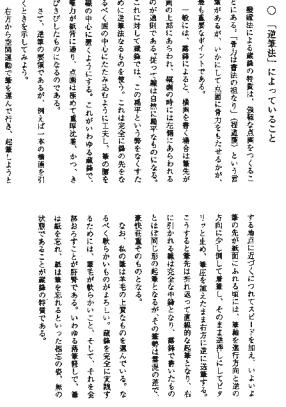
この両者は、楷法の両極に位置するもので、書形における二大要諦である。

九成宮は引き締まつた明るい近代感覚をもつてゐるが、やせ細つたものとなり易く、張碑の方は重厚朴訥な変化の妙をもつてゐるが粗放になり易い傾向をもつてゐる。（以下省略）

## 〈私の執筆法〉



○ 私の執筆法



4頁

3頁

## 〈露鋒と藏鋒〉

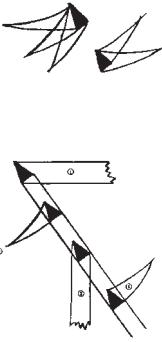


5頁



6頁

## 〈信山書法の点と線〉



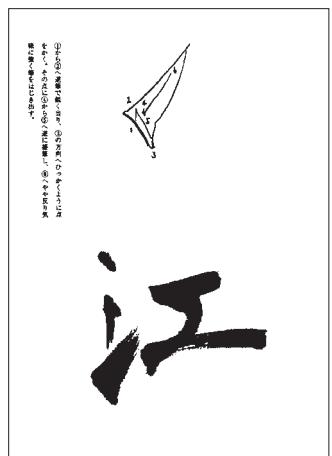
○「点と線」

7頁

## 〈点画の書き方と解説〉



5頁



13頁



○「点画の書き方と解説」



14頁



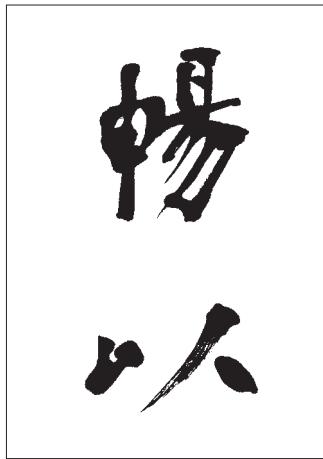
24頁



23頁



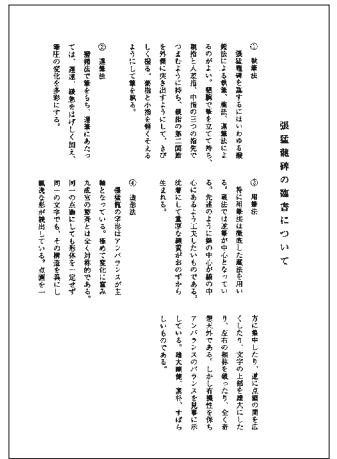
19頁



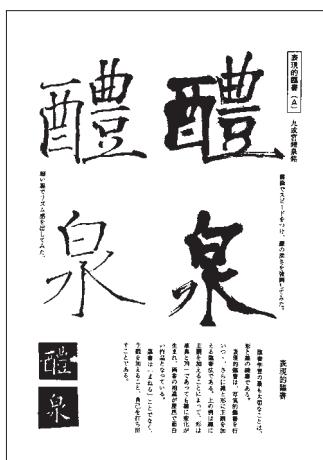
29頁



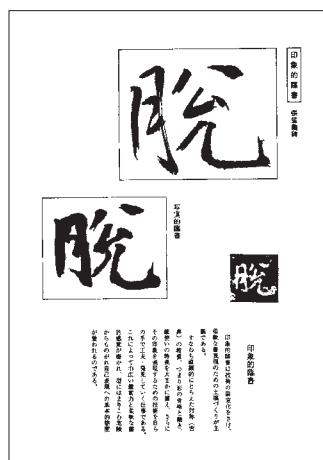
28頁



27頁



36頁



35頁



30頁

〈九成宮醴泉銘の臨書について〉



〈張猛龍碑の臨書について〉

張猛龍碑の临書

〈印象的臨書と表現的臨書〉

〈張猛龍碑の四字書き〉

下  
天  
心  
庭

41頁

京  
北  
加  
河

42頁

〈張猛龍碑の六字書き〉

鳳  
霄  
懷  
於  
心  
若

43頁

〈張猛龍碑の細字臨書〉

秀  
月  
起  
景  
飛  
窮  
神  
開  
照  
莫  
高  
山  
仰  
止  
從

44頁

題張猛龍碑 作者自句 創作

此魏之碑張莊龍幼通雅  
健章大功上報文字幾多  
少書法吾推万古雄  
追張猛龍碑參玄林竹山

45頁

〈張猛龍碑〉



47頁

# 正師範紹介

素晴らしい人生をありがとうございます



有象支部

多田比彩

この度は、正師範の認定を頂くことが出来、有難うございました。私の場合、書風の違うところからの挑戦に戸惑いもあり、一時は諦めていた正師範でした。田中節山先生の御指導と諸先生方の優しい笑顔にどれだけ励まされたことでしょう。筆を持ち続けていくことの素晴らしさ、感謝の思いは、果てしなく広がります。信山流をもつと真剣にと忠告された事があります。謙虚さを忘れず、学んで行きたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

## 特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)



最後の努力

若葉支部 中三

長山 莉緒

今回、私にとっては最後の特待生試験だったので、とても緊張しました。いつも以上に丁寧に書き、今までの努力を無駄にしないよう頑張りました。無事に合格してとてもうれしかったです。  
**支部長先生より一言** 二冠達成おめでとう！ マイペースでしっかり努力を続けた結果ですね。これからも「継続は力なり」。



特待生になつて

北府支部 中三

大城 優

特待生は、私の一つの目標でしたので、とても良い経験と思い出を作ることができました。中三までに特待生になれることができた嬉しく思います。次の目標を立てがんばります。  
**支部長先生より一言** 硬筆合格おめでとう。中三となり学業と両立は大変ですが毛筆も特待生をめざし頑張りましょう。



本物の努力

有象虹支部 中三

生形 江里奈

私は小学一年生から習字を始めました。私にとって初めての習い事でした。習字だけは辞めずに特待生を目指して頑張って来てようやく、努力がしつかり実り、結果として出たので本当に嬉しかったです。  
**支部長先生より一言** 特待生おめでとう！！メキメキ実力がついて来て頑張りましたね。次の目標に向かって歩んでください。



念願の特待生

龍文支部 中三

小川みおと

硬筆、毛筆共に特待生を頂くことができてとても嬉しいです。ここまで続けて、特待生になることができたのは、先生が優しく丁寧に教えてくださったおかげです。ありがとうございます。これからも頑張っていきたいです。  
**支部長先生より一言** 成績優秀で、常に目標に向かって努力し、確実にクリアして行く姿が素敵。今後も更に期待大です。



感謝

須坂支部 中二

高橋 寛太

低学年の頃は集中できないので、先生に注意されてばかりでした。高学年になりだんだん自信がついてきて、書道に集中できるようになり、今回二回目の挑戦で特待生になりました。今まで支えてくれた人たちに感謝します。  
**支部長先生より一言** 小学生からの努力が実を結びました。この達成感を糧にして、他の事にも挑戦していくください。おめでとう！！



上を目指して

霞墨支部 中二

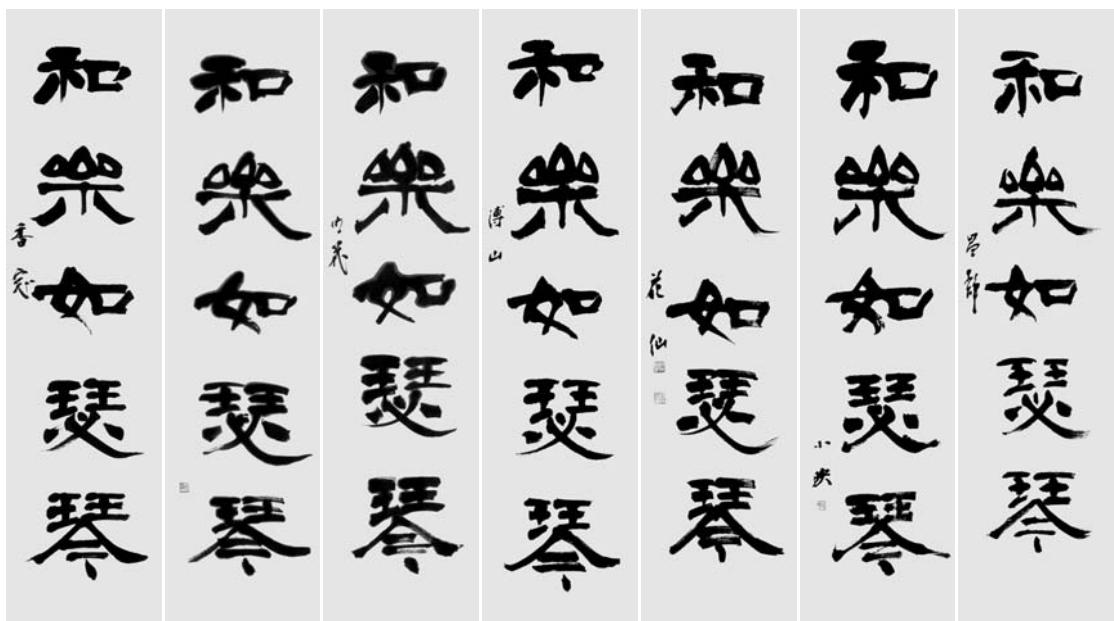
藤崎みのり

私は兄の影響で小学三年生の時に習字を始めました。納得できる作品ができるまでくり返し書き、今回特待生になることができました。これも家族や、先生のお援してくれた家族、本当にありがとうございました。  
**支部長先生より一言** 部活、学習、書道すべてに全力で取り組んでおられ素晴らしいです。これからも一層頑張って下さい。

私は、小学一年生の頃から通っています。ずっと目標にしていたので、特待生になることができてとても嬉しいです。先生はおもしろい方なので、今まで楽しんで続けてこられました。これからも日々努力していきます。  
**支部長先生より一言** あの時なりたかった自分になれることって、素晴らしいです。特待生おめでとうございります。

私は、小学一年生から書道を始めて、今回、特待生を頂くことができて、とても嬉しいです。  
**支部長先生より一言** 今まで熱心に、温かく教えて下さった浜田先生、応援してくれた家族、本当にありがとうございました。これからも上を目指してがんばります。  
**支部長先生より一言** 書道も部活のバスケも一生懸命でです。集中力もすごくて、すばらしいですよ。硬筆もガンバレ。

今月の優秀作品



△隸書条幅△ 評 柳澤 玄嶽

齋田昌静 豊かな線の響きと美しい字形表現見事。

安蒜小映 遅速緩急の変化に富んだ用筆が見事。

鈴木花仙 一貫した重厚な線が全体を引き締めた。

赤羽溥山 正確な運筆とゆったりとした結構良。

鈴織明花 運筆が丁寧で、味わい深い鍊度感じる作。

中田皓花 軽快な筆致と切れ味見事、余白美しい。

湯本香窓 基本に忠実な用筆で左右の広がりに富む。

上田悠翠 隸法の入・収筆の技法を身に付けた。

△条幅随意△ 評 山口 啓山

林田翠山 筆の開閉を巧みに駆使した強靭な作。

鈴木花照 渴筆を効かせ軽快な筆致で流麗な作。

柳田志華 芯のある強い線で緊張感と鮮やかさ佳。

△通信条幅△ 評 柳澤 玄嶽

藤澤竹虹 中心の通し方、大きさのバランスがよい。

土屋寶春 筆の開閉の動き、優しく伸びやかに書けた秀作。

基本課題

評 荻田 光山

井上雅幸 力味のない運筆、自然な風合いが秀逸。

吉田煌扇 潤墨で線太、すべての線が伸びやかな作。

小田切靜唱 墨のにじみが効果的で、文字空間もよし。

岡本秋麗 一点一画にゆるぎがなく、清冽で印象的。

黒サ白  
黒サ白 黑サ白  
偏多 偏多 偏多

勒石畠

勒石畠

永湯將

永湯將

彌章

彌章

惠伯

惠伯

西雲門

西雲門

寺依止

寺依止

西雲門

西雲門

寺依止

寺依止

寺依止

寺依止

文化  
師  
紗虹

成道  
真松

成道

風波  
金

玄珠  
師  
美佐子

玄心  
師  
美佐子

翠丸  
金

風波  
金

成城  
師  
松村恭月

玄默  
師  
光帆

翠丸  
金

絆卦  
金

一鈴  
師  
忠史

一鈴  
師  
忠史

翠丸  
金

絆卦  
金

寺依止

寺依止

寺依止

寺依止

惠爽  
松村恭月  
力感溢れる作風で迫力充分。

師範部

△楷書▽

評 蘆木 珠紅

古典課題

評 小渕 石峯

宿谷硯心 墨量豊かで線に潤いがある。見事。

山田白葉 伸びやかな線で力強さがある。

春日皓静 直線的な線で横画が冴えている。

竹内なお美 素直な書きぶりで逆筆が効いている。

新井谿祥 含墨の豊かさと渴筆の調和が素晴らしい。

彌章

彌章

西雲門

西雲門

寺依止

寺依止

西雲門

西雲門

寺依止

惠爽  
松村恭月  
六文字が良く調和し作品に統一感あり。

伊藤曉道 潤墨の中に細太の線の変化が冴えた作。

田中翠花 うす墨で表現され、形にも忠実な作品。

佐藤茜沙 竹筆を用いたような堅い線に工夫あり。

新井谿祥 含墨の豊かさと渴筆の調和が素晴らしい。

翠華 静紗 虹 統華 格の高い独自の世界を開く、実に良い。

光帆 美佐子 伸びやかな線質で表現に自由さあり。

翠虹 写実に徹し形と線の安定感が群を抜く。

翠華 真摯な作風で一点一画揺るぎ無し。

					<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>
					<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>
					<small>富貴 石草 解 華英</small>	<small>京都一枝 解 華英</small>	<small>穀庭 解 華英</small>	<small>穀田 解 華英</small>
					<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>
					<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>
					<small>志摩 解 華英</small>	<small>穀庭 解 華英</small>	<small>穀田 解 華英</small>	<small>穀田 解 華英</small>
					<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>	<b>西雲門</b>
					<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>	<b>寺依止</b>
					<small>桂 英 華</small>	<small>英 坂田良楓</small>	<small>英 坂田良楓</small>	<small>英 坂田良楓</small>

充分な墨量・太めの線で表現が豊か。  
坂田良楓 素直な線質で優しい雰囲気が漂う。

成苑 草白黒のバランスが絶妙。余白美が見事。

瑤月 月張りつめた空気と集中力の持続が印象的。

祐菜 逞しい文字構造で氣力の充実を感じる。

泰泉 基本に忠実で爽やかにまとめた佳作。

聰泉 月豪快な筆法でスケールの大きな秀作。

祐菜 菜逞しい文字構造で氣力の充実を感じる。

泰泉 月豪快な筆法でスケールの大きな秀作。

聰泉 基本に忠実で爽やかにまとめた佳作。

桂英 華

△仮名▽ 評 中村 巍山

壺 藍 太めの線で他を圧倒する。流れも自然だ。

緑 水 全体感といい形、線もみごとな秀作だ。

光 紗 手本に忠実でよい。余白のとり方も上手。

映 芳 自然の流れの中に強弱があつて、うまい。

壺 露 映影さらりと書きながした。余裕のある作だ。

壺 翁 山 やや小ぶりな作品。線の切れシャープだ。

壺 統 芳 壱山やや小ぶりな作品。線の切れシャープだ。

壺 玉 壱玉大胆な運筆で文字に広さ大きさあり秀作。

壺 峰 壱峰直線で無駄を省いたきれのある作。

桂 薔薇 沙 舞 料紙でうまくいいこみ強さあり。

学 生 部

評 渡辺 華雪

鳴原麻央 文字の形、字間のとり方、うまいね。

松尾奈菜 一点一画正確に書いて好感のもてる作品。

豊田真矢 細部にわたり神経が行き、明るい作品。

内田樹里 ややニジミが多いが線はのびやかです。うまい。堂々として雄大な感じです。

川崎葵依 線がきれいですね。秋の空のようです。

杉田 海 よく練習しています。名前もみごとです。

森田陽人 作品は明るく、のびやかに書きました。

高橋理彩 やや小さいが形、線しっかりしています。

鈴木大智 強い線です。とてもうまく書いています。

玉井心彩 力強く、細かなところまでていねいです。

赤坂 凌 気持ちよく大きくのびのび書いたね。

田口明依 いつも努力していますね。上手です。

片山璃音 元気よく紙めんいっぱいにかけた。

森田陽人 安定した文字の配置が美しい作品です。

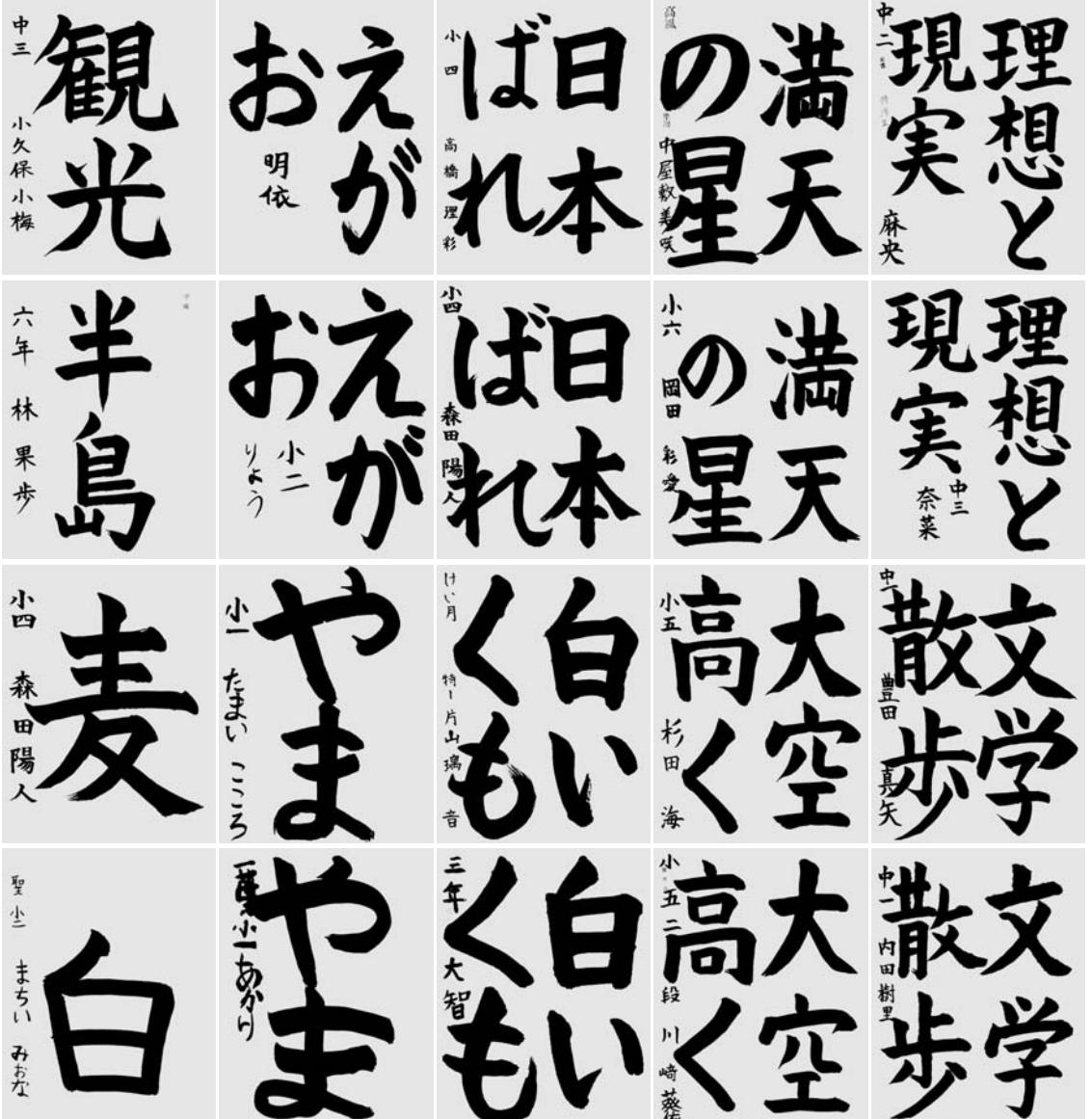
待井未桜奈 力づよくのびのび書けています。立派。

バランス良くていねいに書けました。

このページに掲載された人には書象会より記念の筆をさし上げます。

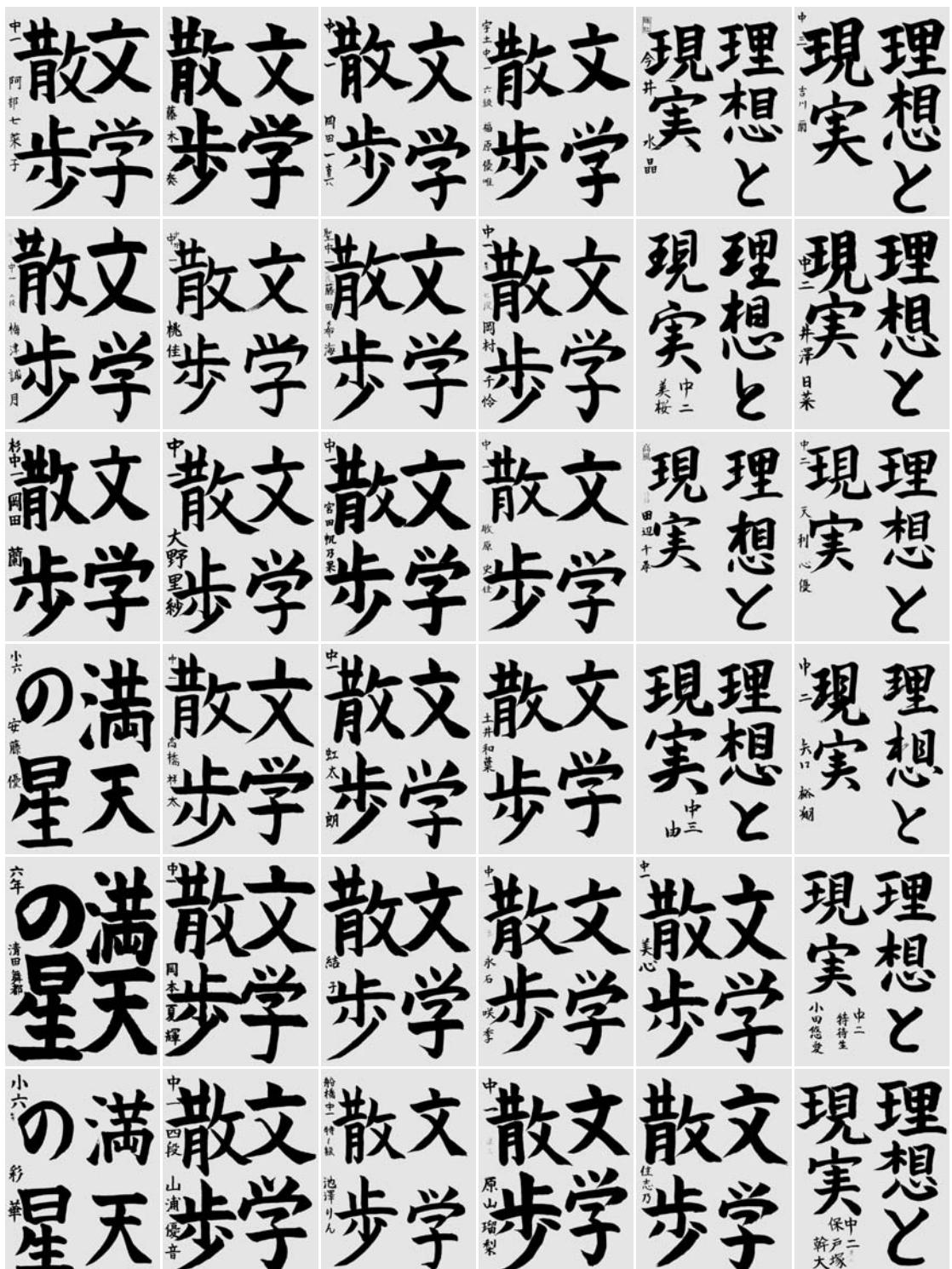
半 紙 隨 意

評 渡辺 華雪





級位 有象 静東名  
 高風 榮根月 潤原潮  
 鳥森根 漢月 潤原潮  
 風高 溪根月 潤原潮  
 犀山根月 潤原潮  
 小林野 征天  
 穂千陽碧 真志  
 田和安和  
 井田柳青  
 田木岩  
 世子代田  
 空志子代  
 仁部平嶠  
 長谷川頭尾  
 馬華坂阪  
 上北坂阪  
 雪翠珠  
 真翠賀  
 美翠賀  
 真翠賀  
 級位 有象 静東名  
 高風 榮根月 潤原潮  
 鳥森根 漢月 潤原潮  
 風高 溪根月 潤原潮  
 犀山根月 潤原潮  
 小林野 征天  
 穂千陽碧 真志  
 田和安和  
 井田柳青  
 田木岩  
 世子代田  
 空志子代  
 仁部平嶠  
 長谷川頭尾  
 馬華坂阪  
 上北坂阪  
 雪翠珠  
 真翠賀  
 美翠賀  
 真翠賀  
 級位 有象 静東名  
 高風 榮根月 潤原潮  
 鳥森根 漢月 潤原潮  
 風高 溪根月 潤原潮  
 犀山根月 潤原潮  
 小林野 征天  
 穂千陽碧 真志  
 田和安和  
 井田柳青  
 田木岩  
 世子代田  
 空志子代  
 仁部平嶠  
 長谷川頭尾  
 馬華坂阪  
 上北坂阪  
 雪翠珠  
 真翠賀  
 美翠賀  
 真翠賀

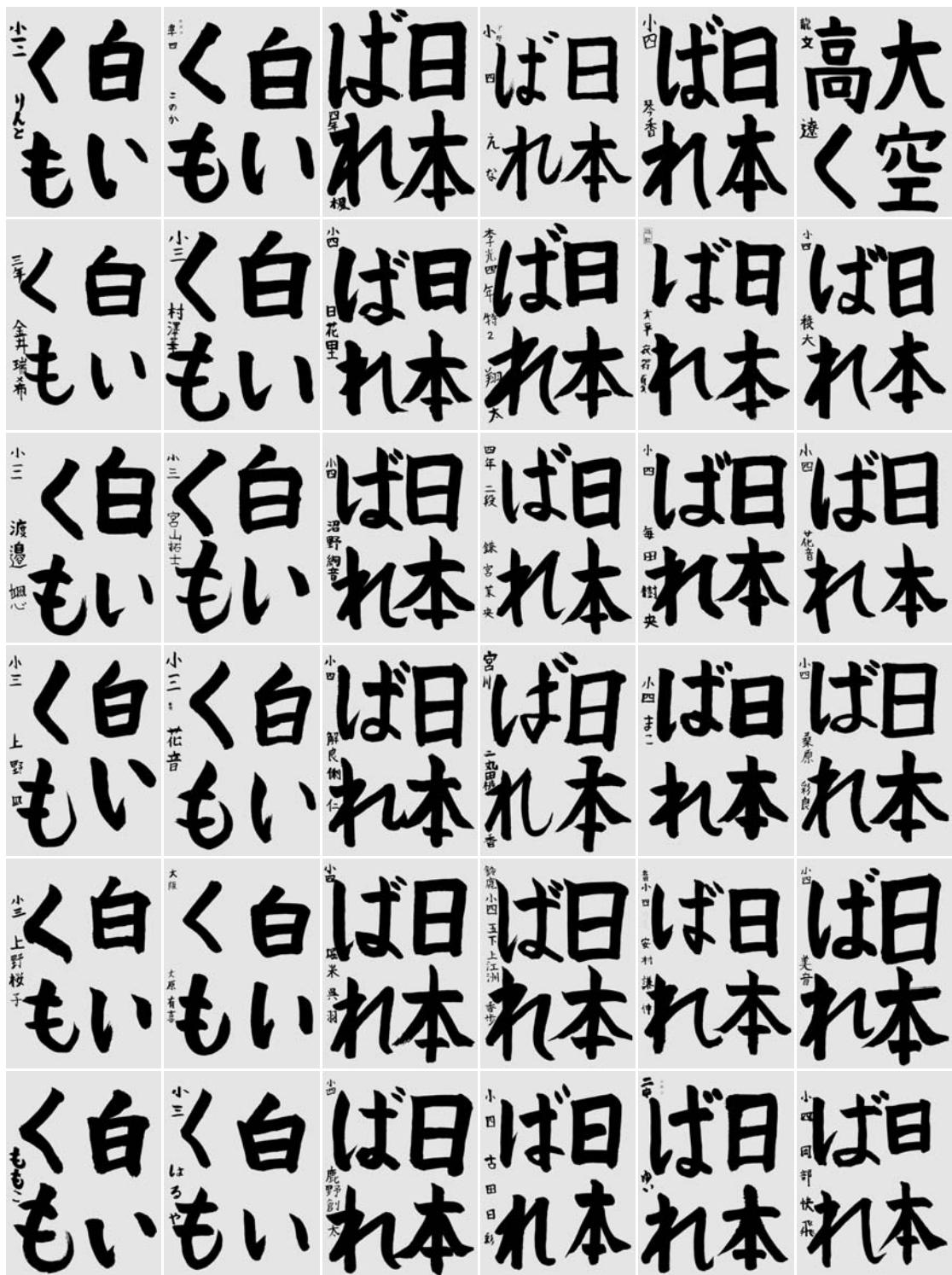


[毛筆] 中二・三  
 華こ光丘 小杉み大名練虹有中房船松峰玄聖霞墨 倭玄象華宇知光丘 宝仙高風たけ珠硯皓花 高社東名  
 雪月象東馬苑虹野風橋峰玄黙 横象華宇知光丘 高風天井吉澤矢口  
 清田安藤 岡田梅津阿部山岡本高橋大野中嶋藤木池澤秋谷齋藤虹宮田帆岡田原永土井牧岡福原小林  
 舞華都優 蘭月子誠菜優夏祥里桃り結乃果希海一真瑠梨乃千優和史千優葉佳怜唯心日由尋  
 [毛筆] 中二  
 華こ光丘 小杉み大名練虹有中房船松峰玄聖霞墨 倭玄象華宇知光丘 宝仙高風たけ珠硯皓花 高社東名  
 雪月象東馬苑虹野風橋峰玄黙 横象華宇知光丘 高風天井吉澤矢口  
 清田安藤 岡田梅津阿部山岡本高橋大野中嶋藤木池澤秋谷齋藤虹宮田帆岡田原永土井牧岡福原小林  
 舞華都優 蘭月子誠菜優夏祥里桃り結乃果希海一真瑠梨乃千優和史千優葉佳怜唯心日由尋  
 [毛筆] 中二  
 華こ光丘 小杉み大名練虹有中房船松峰玄聖霞墨 倭玄象華宇知光丘 宝仙高風たけ珠硯皓花 高社東名  
 雪月象東馬苑虹野風橋峰玄黙 横象華宇知光丘 高風天井吉澤矢口  
 清田安藤 岡田梅津阿部山岡本高橋大野中嶋藤木池澤秋谷齋藤虹宮田帆岡田原永土井牧岡福原小林  
 舞華都優 蘭月子誠菜優夏祥里桃り結乃果希海一真瑠梨乃千優和史千優葉佳怜唯心日由尋

五年 津久井 陽	小五 竜也	小六 結衣	小六 麻利菜	小六 北崎 瑞丞	龍文 吉奈
鉢城 生主 四年 姫野 嬌代 良子	五年 宮本 真希子 大空 千咲 陽	小五 紗幸	朝日六年 四段 の星 大印 宗介 星	小六 ヨシ 大印 宗介 の星 ガウリ アデヤ 星	小六 ヨシ 大印 宗介 の星 ガウリ アデヤ 星
小五 小山 千咲	五年 古屋 すす菜 大空	五年 乃亜	杉小六 田村 心篠 の星	小六 宮崎 玲奈 の星	六年 仁人 仁人 の星
小五 美菜 五年 五段 傷芽	小五 小林 茉白 大空	小五 河野 敦也 大空	六年 山岸 愚亭 の星	小六 山岸 愚亭 の星	六年 小林 男貴 の星
五年 濑戸口 葵	小五 伴大	五年 菊地 音乃	小五 高 晴夏 大空	小六 与那城 鶏原結月 の星	六年 の星
五年 宿谷 颯	小五 佐 葵衣	五年 三石 树	小五 星 幸平 大空	小六 須永莉世 の星	小六 小林美希 の星

[ 小五 ]

硯寶 春	華星 星	練馬 杉 日	志摩 清	渕美 華	龍文 倭
馬星 春	雪星 星	竹日 朝	永山 永	苑杏 喜	暁杏 喜
新若	華富 暉	名東 日	山岸 世	華北 晴	碩大 盛
城城	貴心 愛	竹日 月	那城 月	瑛宗 月	坂仁 月
新高	綾霞 光	志摩 晴	山岸 仁	大印 仁	林勇 勇
域若	墨山 穀	木須 永	那城 仁	笠原 宗	小林 勇
域新	奈往 鄕	澤田 売	山岸 瑞	碩宗 介	美瑛 仁
域域	菜神 奈	松森 楓	山岸 瑞	大印 介	碩月 勇
域域	華綾 霞	田蓮 莉	山岸 梨	笠宗 月	喜舞 勇
域域	華富 喜	澤連 莉	山岸 喜	碩喜 月	喜月 勇
域域	華心 愛	松蓮 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華霧 穀	田心 篤	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華愛 遼	森蓮 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華光 丘	小野 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華柏 桂	田蓮 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華富 霞	藤連 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華貴 綾	菊連 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華愛 喜	小連 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華心 喜	森連 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華霧 遼	小連 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇
域域	華華 遼	連連 莉	那城 舞	碩舞 勇	喜舞 勇



成久中霞湊光秀大華松灘心正桂秀華  
喜央墨丘雪阪雪代心美二若宮竹  
城八潮高社黙翠靜丘長壽富士馬練珠  
諫訪鹿高山愛山鈴川皓花李光北府  
内渡野解良解沼野古田中川安原大平  
桃井梅津加木村山日上江洲香步中  
子颶瑞原村山房里日彩桃翔太築君  
心凪凛拓日絢音楓香大加納大村  
希人也喜音士華創吳羽翔大心

小一 ひなこ	やま やま	おえが おえが	おえが おえが	くもい くもい	白い 白い
五上 はやと	やま やま	おえが おえが	おえが おえが	くもい くもい	白い 白い
小一 まひろ	やま やま	おえが おえが	おえが おえが	くもい くもい	白い 白い
小一セ中 長沼修一	やま やま	おえが おえが	おえが おえが	くもい くもい	白い 白い
の みな	やま やま	やま やま	おえが おえが	くもい くもい	白い 白い
小一 おあだださき	やま やま	やま やま	おえが おえが	くもい くもい	白い 白い

小一 竹名若秀華雪有穗  
 かけ 華東松二秀雪華穂  
 小二 龍文光丘秀雪青雲皓花  
 扇盧長沼伊藤曾根日向紗美  
 大新井原大塚古谷山瀬碧美  
 堀柏松鈴木竹村原島朱璃  
 緑岸川渡井坪井五十嵐里  
 飯田蓮田瑞祥原島杏奈  
 和田硯扇瑞祥原島健人  
 須坂承祥原島心望  
 月月名村上旺志郎  
 承風田野太郎  
 坂和村上志郎  
 虹花高橋志郎  
 有坂山武優太  
 鮎川西野宗也  
 風山高橋優太  
 虹花山本優那  
 鮎川鮎川渡邊  
 鮎川西野中央  
 鮎川山本優那

<p>きましましては、いかるかけつか</p> <p><small>正桂 杉山愛美 菜有虹 美菜 華理子 優心 穂花 悟彪 芽依 あおい</small></p>	<p>きましましては、いかるかけつか</p> <p><small>千曲川 仙台石峯 練馬大竹 尾形洸太朗 荻原莉緒 未空 心希 哲季 春山葵来乃 濱田永野 加島高日 岩谷近藤 咲季 有象花雲 玄默青木 理沙玲奈 球尾染谷 中川瑞南</small></p>	<p>高山に生きるライチヨウ は、神の使いとして大切 にされてきた。</p> <p><small>正桂 杉山愛美 菜有虹 美菜 華理子 優心 穂花 悅彪 芽依 あおい</small></p>	<p>わからぬ言葉があつたら すぐに、国語辞典で意味を たしかめましょう。</p> <p><small>中川玲玲 五郎四郎</small></p>	<p>明快な物語、ハリー・ポッターは堅苦 しい決まりごとは存在しない愉快 で冒険ばかり。</p> <p><small>鎌田三津也 満之助 山菱辰夫 鶴澤ねり 奈良喜美子 喜美子</small></p>
<p>きましましては、いかるかけつか</p> <p><small>妹尾芽依 一郎</small></p>	<p>きましましては、いかるかけつか</p> <p><small>芦原紗恵子 五郎四郎</small></p>	<p>高山に生きるライチヨウ は、神の使いとして大切 にされてきた。</p> <p><small>芦原紗恵子 五郎四郎</small></p>	<p>わからぬ言葉があつたら すぐに、国語辞典で意味を たしかめましょう。</p> <p><small>黒田紗恵子 五郎四郎</small></p>	<p>明快な物語、ハリー・ポッターは堅苦 しい決まりごとは存在しない愉快 で冒険ばかり。</p> <p><small>鎌田三津也 海田心希</small></p>
<p>きましましては、いかるかけつか</p> <p><small>正桂 杉山愛美 菜有虹 美菜 華理子 優心 穂花 悅彪 芽依 あおい</small></p>	<p>きましましては、いかるかけつか</p> <p><small>名東千曲川 五郎四郎</small></p>	<p>高山に生きるライチヨウ は、神の使いとして大切 にされてきた。</p> <p><small>名東千曲川 五郎四郎</small></p>	<p>わからぬ言葉があつたら すぐに、国語辞典で意味を たしかめましょう。</p> <p><small>高島杏奈 五郎四郎</small></p>	<p>わからぬ言葉があつたら すぐに、国語辞典で意味を たしかめましょう。</p> <p><small>高橋千里 五郎四郎</small></p>
<p>きましましては、いかるかけつか</p> <p><small>正桂 杉山愛美 菜有虹 美菜 華理子 優心 穂花 悅彪 芽依 あおい</small></p>	<p>【一般】 書之北府 練馬龍澤 鈴木松沙 小渕こう 千里</p> <p>【中学】 名東 近藤 浜田 春山 藻來乃 永野 高日 加島 岩谷 中原 青木 瑞南</p> <p>【小五・六】 京都 湊 大竹 石川 尾形 太朗 荻原 未空 心希 哲季 咲季 有象 花雲 玄默 染谷 官尾 理沙 玲奈 結奈</p>	<p>高山に生きるライチヨウ は、神の使いとして大切 にされてきた。</p> <p><small>名東千曲川 五郎四郎</small></p>	<p>わからぬ言葉があつたら すぐに、国語辞典で意味を たしかめましょう。</p> <p><small>高橋千里 五郎四郎</small></p>	<p>明快な物語、ハリー・ポッターは堅苦 しい決まりごとは存在しない愉快 で冒険ばかり。</p> <p><small>近藤咲季 大竹莉緒 五郎四郎</small></p>

聖港玄司成産 大青八華菴葉 国崩産 書秀 玄大高玄長 わ皓上野花桔志華石飯儀京富一成玄文静玄玄魏 南黙峰城吉 阪雲南雪月 府象吉 集雪 黙象風黙翠 竹花里黙象川摩雪峯田辺都貴絵城樸化翠黙心山師楷師 秀秀 花窓天司尚想珠伸竹江華翠芳峯景静秋雨谿秀圭春美蒼頡巻京景陽淳翠泰聽祐瑤成葉良華惠恭紗靜光美貞 範書範佐
瑠眞性峰月花松珠虹蕙詠雅子山草素麗虹婢波凰意悠風山光山月光映子花泉月菜月苑草楓英爽月華虹翠帆子松
信「静」中磯墨玄右麗若笠乙「茅」「房長」杉京白「京硯」有文土柏「巍若西碩瑞碩妻玄龍秀三大」「玄 大野辺洋樸文墨松原訓「野」風野都山都象化筆心山竹雲祥雲科樸文雪池象黙秀秀秀 梓靜肖鐘葉香松琴蕙泰佳美志天天春壇汀晃隆煌禮照絢美雅硯佐直泉陵採汐翠太西輝名真春季映惠溪馨齊心大大 惠代
虹峰思栄朱蕉織琳菜羽香仙扇子豊翠澄海玉雷静二扇子節楓楓幸心子子秋光舟影山一沙子松静清江雪果風秀花燈我慶
華國美国南書玄梯石玄巍墨靜大書上笠董蒼柵富松富巍倭「巍宝」葉玄美「玄土上若正小平相千長靜 雪府五府墨之樸森峯黙山洋象阪集里原宮友貴南貴山山春月樸生樸曜尾竹桂平成興曲野秀秀 華華奧華華華景鶴尚美南蕙菴夕素彰光霞壽珠谿澑泰翠秀瑞天志壇小綠西湖寶陽弘淨晨小嶺花康貞汀杠明泉靜皓虹 お
駿紋泉祥芯慧蓉仙苑子仙岳翠紅州月紗菖美汀悠山仙慶紗麗逕栄苑藍映水英泉春子子山玉楓花仙螢月心華桜志志靜 龍秀「若産大」光雅「玄」「柏」「湊」「大産玄」「高玄」「成國」産香「大」書「青八玄久 文雪宮吉象丘黙心象吉黙風黙城府吉阪之雲南心喜
紗秀梗梗京麗由政雅越旭天華綾硯芳汀晨雲西圭濤逕雄祥玄白憲真清祥薰明光敏雅琴清禎玻萌珠彰奈翠純瑞順冬勇桜 香真
恵水紗華春香里一春山蓉意峰子舟舟茜秀峯光苑阜光峰風虛葉花菜風仙禾成竹美華月光子玉久玉々幸彩竹子雅峯嵐
松葉自墨名茜映寿國桐八華蒼董碩志瑞摩顧頤妻玄妻 戸月產心東心台府生潮雪穹雲摩祥雲科樸科
久啓ま三晴琴善美百美敏心清淡翠敦彩谿映珠訪昭桂秀兔逕華華華華菖い静歎さ楊奏清涼名実名名壽名武多泰馥春蒼李李惜志 美す智合奈すお喜
子子行子三一子子子子快速愁溪子奈沙祥笙岐子泉翠翠月月輝聲遊桜凌風み江造り舟風子華洗琇穂琴柏紗芳浩子雄郁瑠玄芳京春織 長須霞春サ霞岡八八産書東書心須雅秀玄湊北宮磯松長玄美秦玄愛野坂墨鳳ノ墨谷戸南吉集根集和坂雪黙府地近代野樸生野櫻燐心
玉智智溪春詠虹夕通春啓青愛由紅谿益智智智雅秀典五南汀妙晨華皓伶嘉雅佳笙葉美文靜富由緑桂李輝春芋晨蓮芳袖め孝絵 奈智次静真寿霞鳳舟霞明光風松鈴紀雪峰亭翠恭悠祥洲映香溪子福花紅仙玉遥草那子美子仙艸静澄靜靜風春雪山里里翠堤英月香み里
房古「玄中サ」中星宝「新岐東」上竹若玄一相長「若六備皓若藏桐」柏産大和紅静遊汀 風川耀勢ノ勢春城花阜和里華竹心絵興翠竹郷後花竹生芳吉手竹松
壺悦滿耀桂美桂桂徑裕桃敦晴雪佐彩麻摩皓直陽陽濤陽陽理景彩李た孫憧憧嶽景昭菖皓志惠涛我已茫然光江梨紅靜遊美由明史順絹 智以里幸か知美
桜子楓玉舟舞耀石美子子美川子香菜紀雲子子清秀山理松香雨乃風ね光月光心花惠紀花華香泉山芳禾苑風草舟玉香嘉子子美代子
正小土平上若長八桿小蒲國花磯神サ皓玄北飯綾李茅乙桂平曜成尾竹翠南森光田府苑辺奈花樸府田華光野訓
花優木芳鈴明佑雅幸信康康康憧樹暎晨揚孝佑春暎小光光光玲さ文浩洋惠葉櫻香翔み芝梨さ隼仙嵐寂代津頌玲壽千絵久李曉正峰京 峰美華月華麗美子一沙惠清仙泉光光光翠光信山琇惠霞搖笙ら子子範子桂泉織子華子山翠翠子山翠翠里子恵光道純弦琴
乙照飯巍榮巍柏足柏巍榮珠靜綾飯文一瀬羨玄巍杉玄花杉長東宮巍藏訓澤田山心羽心山書辺悠華田化路戸苑心山心象寿陽川辺
千照照玉完眉青溪雨佐幸江恭翰美真蓮信霞清茜松葉知静照成麗智秀白沙珀苑凜雅藤秀友寿寿寿寿江祥千江敦祐葉葉葉葉葉葉 惠智
春和好蘊碩月沙茜香美泉茜影舟子希舟翠舟茜草沙暎子花美華節園月羽雪舟心秋子花庭美香敬雅星鳳惠己苑翠子貴楓苑明涛芳徑秀 原辺笛磯静長游八静美中大長静房美浅東房浅長野風菜間光風間野
泰泰彩文泰泰美葉葉靜玲靜惠江美靜裕静友由希遊靜君盛穗栄康萌幸靜絵靜秀靜静小壺霽霽湖千壺霽容祥詔李杏靜恒靜青 代
帛桂穹乃扇袖邦蕙空芯亭榮園鶴奈敬子靜恵靜信光光紅心幸子一華香子泉靜淑静千華琳邦翠裕明楓千泉子登峯光映泉香靜唱靜映葵 富白松富巍業巍士美靜文有文有苑聖玄自笠四珠聖貴岡南貴山書山筆那象化象化象黙産原谷紅
藍天喜壺朋香朝安陽千藍明蕙澄晨晴伊亞燁啓霽靜紅華爽節麗彩麗有晚比夕節麗麗加霽惠藤清禾和宏泰久泰惠珠珠珠か良碧美 厚登利
花虹咲晶泉扇花夫景照川香笛影江雪沙子沙光光峰成節光節舟玉麗艸美麗節苑吟竹代子由璃天苑春惠咲篁惠薰月杏遊水の龍瑤子 右神游麗一晏墨玄有静竹サ八石玄桜苑土笠玄港玄港笠董玄志董蒼桜コシ梶八文墨路墨洋黙象山友ナ南峯成筆原嶽南嶽南原嶽摩穹森の友潮
梢賢整泉紅花泰千章愛友麗花秀佳テ美祥石穆芳美和光咲飛泰芳慶詠土玲窓湖翠洗李双清蕙翠采祥美雪道翠菖妍妍溥晶里虔花寿重 溥惠
琴山子梢川天慧波敬麗節穂庭鳳凰子砂菊舟舟桜子美蘭依悌恭葉子李鳳窓煌亭真葉葉葉秋葉葉葉葉葉葉園幸桐月象龍山子和山巡月子 霧杉産杉京新飯書葉杉サ右玄サ柏聖桿大倚若桿游乙文浅桿有東桿訪吉都城山集月ン文成ン心森淀雲松森墨訓化間森象光森
皇蘭煌採靜秀快娥初邀寿明永蕙谿壺知愛明無碧梢朴リ鹿富小光英天聖彩文秀光肇昌素哲征美游文禮尚蘭愛廣優涼祥健ふ佳豪星 紀
子庭心花章娥風舟泉月雅美実子祥芳水真子光双舟陽山絵聲子琴水遠妙嶽紅嶽翠瑤子子風山光光惠界光山節光山華星香節夫え蓮峰紅



高杉港曉美皓蒲東長游司座城	杉	柏梶四文大富平北土八八	春寿若	国港華光董志富笠華霞玄巍足青國須八足柏	北上正風	南月二花田根翠墨峰吉彩	心友谷化阪貴成府筆潮戸準	玖台竹	府南雪丘	摩貴原雪墨黙山羽雲府坂南羽心	府里桂
高玉慶朱盛み浩由恰游司昭真簾紅詔綵	つ	有	み	秀秀秀秀秀秀秀師	秀	千麗京節訪嶽峯美窓華政い楊明泰華溪越茜	順雅智啓美樸悠隼陽花	つ	有	み	利
月袖子実一る子紀光真峰子美心流次舟枝汀節珠夫美子沙子光	月	袖	子	真	真	心	流	次	舟	枝	汀
小半春香靜静秀靜恒祥霽西秀採鈴悠香皓明薄花小昌範幅	小	半	春	香	靜	靜	秀	靜	恒	祥	霽
楓里琳秀思華澄靜映楓光庭花華翠窓花花山仙映靜	楓	里	琳	秀	思	華	澄	靜	映	楓	光
白志蒼柏玄小國水儀高士	白	志	蒼	柏	玄	小	國	水	儀	高	士
峰蓮州風霄苑桜裕澄海顧清泉翠光山泉織香泉鳳敬逼花風花玉悠玉桜光香惠苑草曉明溥一園象龍月風煌帛桂靜唱靜淑干志靜華翠紗泉	峰	蓮	州	風	霄	苑	桜	裕	澄	海	顧
游笠乙茅李巍土神右靜墨美麗瀨南虹一若倚土褚有文	游	笠	乙	茅	李	巍	土	神	右	靜	墨
河絹嘉子靜快遠花光陽風華舟明苑松玉雪香素雅泉扇花苑	河	絹	嘉	子	靜	快	遠	花	光	陽	風
翠邦汀晨皓華妙汀享香景雅良博美照津典信敏翠晴敦谿雨愛純瑞智智春光壺三弘玲天明天藍安壺逕處蕙泰美泰蓮硯鹿洞綾詔泰真	翠	邦	汀	晨	皓	華	妙	汀	享	香	景
桐楓茜玉草遙仙紅月文泉幸楓楓鈴楓楓楓子花美子芳虹鈴彩竹祥真洲光風水行子窓笛栄花夫晶月山翠恭亭空舟舟聲舟	桐	楓	茜	玉	草	遙	仙	紅	月	文	泉
泰久泰秦泰宏梗蒼溥道清靜靜皓文靜富梓隼頌伶壯袖谿映映我康康康惠康康嶽	泰	久	泰	秦	泰	宏	梗	蒼	溥	道	清
香風子三蓮華舟子水琴嶽峰羽麗美砂葉美節虹紀華里琳玉悠月光靜節舟泉璃月映紗芳山沙華子翠茜沙	香	風	子	三	蓮	華	舟	子	水	琴	嶽
里秀康惠梓千江祥敦映弘善玉成友汀杠桂昭湧翔皓萌知小袖め小香皓江光小春葉櫻鈴晨閑貞憲康谿谿雨繪愛光谿紅康白素壺章	里	秀	康	惠	梓	千	江	祥	敦	映	弘
絵翠惠由虹苑惠己子笙祥美翠蘊苑光心華舞子泉子花泉華子翠香み楓織雲翠惠信栄泉華英子月月仙峰祥虹里鈴霞山雪蟹羽州水敬	絵	翠	惠	由	虹	苑	惠	己	子	笙	祥
惠花大齊美真晨蕙夏恭李雪真聽由政雅梗采美芳窓慶泰泰景ま華華華華苑美茜珠華光翠陽啓芳華明華華英藤詠雅智勇奈葵華	惠	花	大	齊	美	真	晨	蕙	夏	恭	李
素裕桃彰美惠秀梗涼翠彩眞成憧み揚秋湖和游珠範貞珠典五草喜恭玻萌聰信典邦津照紀明泉泰麗京直汐晴伊西綠茜富典禮藍	素	裕	桃	彰	美	惠	秀	梗	涼	翠	彩
風子月悠果水華華幸香弓華光る光河泉惠惠天松松子代竹春月玉玉子楓楓楓鈴子美梢仙湖節子影沙子英水草子子花	風	子	月	悠	果	水	華	華	幸	香	弓





四曉 成硯虹晏司有東神藏若笠"高有玄若秀中華光美東一勝"大桜"笠瀬玄晴瀬小石有司東珠信光北玄書信和汀紅葉久須八倭谷月二城 菩提峰象根龍 竹原 風穂模宮雪央雪丘那根	準路木 阪森 原戶心美戸平峯象峰光悠大丘府樸集大 松竹月喜坂潮
☆☆段 千唐 中館吉米池近児押閑小加清裕松一須内阿め岩ス青段 一田吉妹鑑小牛吉雅田安山梅渡大奥奥山酒細南石杉今作塙相桜田倉	葉木 村澤川倉田藤玉見文山藤水 永 田野部ぐ立ミ柳 系部井尾倉浦山川 迂藤中崎邊西山手田井紗川崎恵森明澤 鍋 豪
和暁 由舞淳節湜節寛広子愛こ弘香梅枝幸ま泰み明ス裕	ひ恭美睦師祥真眞子恵ち笑哲橙雅る璃高秀英静翠美ミ子ま嵐隆子
八 優秀若一大映竹文東玄"北若大源硯笠若志秀杜杉和華" "杉優 小長桜備乙 一平倚倭" 笠三" 産杜大久上東信千美若桜大	潮初生雪松路阪心華化光樸 府竹淀創扇原宮摩雪会月 雪 生 平野森後訓 準葉成雲 原池 吉会手喜尾根大曲菜松森阪
☆☆段 岩 横中佐鈴木山柿尾大加鍋森皆石多宮大林大里中杉白松野清吉 大安當浅丸柳原段 吉佐宇中鈴林ラ長大泉伊川長松伊安藤川田岡	田 本西藤木下田沼崎場藤島詩川田嶋和万西川山 嶺井田野村嶋達間沼山武本 浦藤野村木能 美村水藤鍋谷澤藤本島中本記 紀美真香研夏有光照穂誠音惠智時文美寿麻浩正咲き佑三簞真曉月清弦和厚 碧信育成成活ミ佐し敬友裕勇美均由霧郁孤紗
秀笠北"石美松"宝秀上右赤"一富高飯石"秀高一美 玄華杉瀬宝小"名八北横大杜光"秀"笠大"有"大小八八若笠游竹乙 雪原府 峯苑代 春雪尾文石 路士風山峯 雪社路菜 準心雪 戸春平 東潮府二手会丘 雪 原阪 穂 淀平戸潮松原墨華訓	☆☆☆初
肥松若阪鈴浦吉宮門本竹長澤宮花佐岩山恵大川横上森笠段 松中小林長藤山渡田小井藤松水武田宮藤村山大岩大羽田峯村山田染永 田田月田木野岡山田城澤谷村下 藤野田美竹口倉野慶原 本畠林梨山井田邊口島藤田澤野下沼原森田下石澤熊山名岸松崎村谷演來遙亞容捷衣智友千袖芽舞琴如天暎樂便子垂水原は子浩 加麻香美香和純琳響夢光美慧靖由幹杏祐連大慈由信游部真美里由教和	光" 笠倭宝玄" 大倭" 虹珠茅書東承石虹名靜 高上小磯" 北光" "秀玄" 笠華須千大きさ美" 若唯名石有 春玄中柱" "
丘 原 春嶽 阪 友悠野集根 風峯苑東 特風尾光辺 府丘 雪 嶽原な雪嶽曲并わ苑 松心東峯象特次心後中央	○○○○ 2
須丸三長土栗小海深津岩立真増佐石尾中萩未鈴級 北大佐酒丸若文井原平小鏡丸上星関吉池村松片東今諷北石級 横成近平益今松 田山村山溝賓屋原倉津川上戸川道田藤川形村尾木田 藤角藤井山月野上田松林田山田雄谷里田山下山岡浪訪野井 本田藤野田國本千響ほ桜孔遙聴里珠穂明ち茉陸令ほ友千直朋棕そ 宗地威尚暁千未桃彩天礼耀は美斗優め恵直智雅胡裕彩修節 光陽ア夏文真奈	○○○○
美珠紅宝有希美晴高" 若成珠唯秀暁中四み李 東珠" "茜大一桜珠麗山" "光" "秀" 笠一み八小千松小覗四 大大" "皓" 北右山 二悠竹春象望苑美社 松城紅心雪華央谷な光 2陽紅 手路森悠墨愛 丘 雪 原葉な戸光曲戸光 谷 1象内 花 府文愛	○○○○
○○○○	脇信湯古夢丸知石小川谷木青古鳥池坂大笠園級 井朝青坂栗藤安桐玉門大須小常東中古根秦千石中風曾小柳級 八山林水大高中中紺 山田本田 山 澤坂島美下 木井邊本貴原真 田 木口田楽原井倉棚田林田出田烟岸喜葉橋沢間我泉澤 品本さ田坪野谷尾谷 幸陽春響橋遙子理早実葉実空惠優実幹美恵知 愛日暉愛果住岡松杏奈茂歩有彗先叶和涼代文葵 静部志千 佳幸え有千日理若紀
笠玄 宝大" 有水大美秀こ 華美若優李練光志み横自宮東小信杉承茅東 大光" 秀頑倭若桜新杉葉華杉 北中北大山玄柏み大 原心 春井 象代阪五雪の5雪那竹生光馬丘摩な二産の川陽光大 風野根4阪丘 雪雲 松森城 月雪 3府野府淀愛嶽心な手	○○○○
猿小島土永大松柴多齋圃清級 森中 大石佐西石鳩松小坂東細井登野内赤平級 福城中所輝小新降加原柴植柿 横石田植小渡勝西小玉 田池山房原住本田田藤桜田 本村茜鷺松藤本田原池口佐野上内崎海掘田 嶺田西雅 杉堀幡畠 嶺鷺崎 田川野川久又澤泉井 青来智智み玄二ま秀可子波 斟広 碧美雅媛陽舞薰節菜藤夏和光明景さ 直真彩玖子佑優孟宗真恵修智留 夏彩光さ美瑞美典ま	○○○○
"有晩司優秀硯礔光み" 杉こ平 秀" 倭司" 照茅珠長皓" "若た瑞玄葉承有さ高松唯倭華龍名照名秀須 観虹華秀高李中北" "秀" 象月峰生雪扇辺丘な の成 7雪 峰 澤野悠寿花 竹け祥嶽月風象わ社戸心 雪文東澤東雪坂 6 友雪雪風光野府 雪	○○○○
川岡森森澤佐本平文森黒櫻太玉級 沖高高吉小吉藤吉寿郡塙田竹一平石大美花坂青聰メ 石石木小笠遠高級 岡五小藤熊吉菅閑古小山 口本田井久田野野田崎田谷 山部井備林江澤田 司川中内丸出山村濃 田山 イ田田下沢野藤橋 田十林原谷田麻根谷牧崎 菜真正京麻間陽秀柚更李美陽麻 菜明純英直智り真鳳咲優葵そす一和福部衣真利子ヤ雛小千智翔裕大 桃川ま茉絵忍衣萌野由咲	○○○○
大" "宇光司茅練杉大四成小玄り山玄玄笠倭" "華承新東宇大" "希仙" "高樽藏秀倭秀杉大名 承" 高練秀若董中" "華千 阪 土丘峰野馬 象谷城光樸ん愛樸嶽原 雪風城根土井 望台 社森 雪 雪象東4風 社馬雪宮 央 雪曲	○○○○
小大福黒宮粟吉内矢小齋峰小須勝早神南蕙齊長加加万佐岡犬岩黒古古高松小大小輿小原鏡和牧大級 藤阿飯宮相三近居菊土金 宅黑原田城戸村田野川藤須野崎間谷蟹 藤濱藤茂谷竹幸翁飼嶋柳澤禪橋尾山矢尾澤文山田岡賀原津 原部島本崎井藤間地屋井 真心優結乃春郁くこ晏百賀奈園萌晴成葉亞日湧勇実理步尚園宇佳咲允優修子恵久ち井淨彩 俊な菜真良け瑞麻患江	○○○○
"華船 京船長中正有さ文" "華" "倭" 玄秀城麗游源大名練 華練北葉 野有華倭" "聖雅光游" "瀬水" " " "若李" "大船 雪橋四都橋野勢桂象わ化 雪 横雪彩墨墨創阪東馬準 雪馬府月 迦象雪 丘墨 戸代 松光 阪橋五硬	□五
森秋神段 中楳杏桂花小丸三華齋門齊千川李井清高神香伸渡鉛段 染吉小鈴戸榎永め齊宮植清酒青水降弓乘加谷京田林菊段 筆 田谷谷 野谷 林山藤 木脇山葉田 上田田山 遺木 谷田野木田本井ぐ山川原永井木野野 削田藤遙 中珠田 由賢萌 恵理靜玉峰晴正紫溪祐華愛美李芳典真倫禮文珠琳こ 華真内敏碧淳麗み理萌浩雅秀由勝美雪千蕙昌華子満恰佳	○○○○
聖凜龍秀雅光湊様" "大四季さ大静" "玄" "美様若小長小希和倭玄游大" 船茅練名石 玄司珠長玄皓名美杉和華船司大美玄倭" 心文雪 丘 森 阪谷光わ阪 三櫻 生森竹平翠平望 獅墨阪 橋野馬東峯 準心峰悠野樸花東蓉 雪橋峰阪那樸	☆☆
南岩小武玉高藤田後吉濱竹原阿福齊段 泉織鈴暉冠木大山築今 勝長廣伊大熊敦杉段 泊池半映穴林末川明松華高松吉ス川西中土澤佐倉下井構森中藤井田下敬部田藤 さ戸木 池中山豪又竹中月橋 谷崎 田田 原愛田名 本 橋田村ミ田村屋亞夏尚由カ裕皓孤田美珠惠ニ九実 ら晨久山華鴨怜笑祥美 瑞鷦鷯晴峻道利子翠 舟禊茶靜義友椋光梨輝美司珠ス李奈成惠	段幸と井蛭渡金知唐貝 迎戸島暮 プロ原万井田野村島 嶺尾村口み田津本 藤辺田藤 井 山本井部崎漬井型悠部糸 玉藤 田上川辺子 津愛惠結江華恵雅碧東寿優千真未芹郁貞和睦喜陽え芽仲恵 直歩恭里花尚枝愛水和ひと孔理香喜恭ひ花栄千弦 江千葉愛情千真由
涼晴書和華" 笠一" "若秀" " "光若游" "大" 船東北名高 一船珠靜玄磁若名小華富倭四瀬暁勝一若大船茅 李玄磁名新松葉石心美之 雪 原葉 宮雪 丘松墨 阪 橋光府東社 二葉橋悠 横樸邊横竹東平雪貴 谷戸月木路駆阪橋野 準光樸迎東城戸月峯	☆☆
細田関田小久小吉增林鳥須城文中川游岩妹中出ふ豊大湯段 伊渡津佐嶺洒一小松藤安奥長藤林木田一真宗工峰段 幸と井蛭渡金知唐貝 迎戸島暮 プロ原万井田野村島 嶺尾村口み田津本 藤辺田藤 井 山本井部崎漬井型悠部糸 玉藤 田上川辺子 津愛惠結江華恵雅碧東寿優千真未芹郁貞和睦喜陽え芽仲恵 直歩恭里花尚枝愛水和ひと孔理香喜恭ひ花栄千弦 江千葉愛情千真由	段幸と井蛭渡金知唐貝 迎戸島暮 プロ原万井田野村島 嶺尾村口み田津本 藤辺田藤 井 山本井部崎漬井型悠部糸 玉藤 田上川辺子 津愛惠結江華恵雅碧東寿優千真未芹郁貞和睦喜陽え芽仲恵 直歩恭里花尚枝愛水和ひと孔理香喜恭ひ花栄千弦 江千葉愛情千真由
茜" " "名飯" 石桜華聖董若" 秀房山高玄船優小茅船 雅若上中葉瀬国石紅" 和久華秀久麗有瀬若照船倭珠名華秀 華長上名松 東山 峯 雪 宮 雪風愛社黙生平野橋初 竹尾勢月戸府峯竹 喜雪雪喜墨穂戸松澤橋 悠東雪雪 準雪野尾東代	☆☆☆
坂須木小菊山鈴阪尾星山い須中松壺白上五菊宇鹿赤笠段 原皆長浦敏伊前浦下大白間中内川門柳吉佐照工深立山松横段 鈴晃長大宮口永下野地崎木田崎雄崎ず田西本 井野 田田島堀原 口川谷田 藤山野垣森崎庭烟野鍋倉澤川藤 藤川田井並木 谷津山愛千千聰絵葉捷容芳斗理み幸美奈登衣は福幸川未景芽 佳恵舞桂子道景衣美鬼き未麻ま裕奈夢眞好颯穗茉純佑源 心静彩男友	△
芙" " 北" 皓映" 茜" "名瀬さ石凜有" "大" 華富龍" "秀" "光" "山唯水勝高富若桜" "大" 船暁光書千霞 漱成若" 珠松皓上二 府 花心 東戸わ峯心象 手 雪貴文 雪 丘 愛心代木社木松森 阪 橋月丘之曲墨 準戸城松 悅代花尾	☆☆
刈森細小水大山青栗笠大加村中川愛藤伊石森濱石常平鈴稻肥西小大紺長今水壩小岩村碧岡小吉羽唐阿柳安小込込詩田島田坪木田木野西藤山村北 田藤田本名田松木見田林楓谷井浪野好坂野松 本倉野田木部岡藤林 藤訪島田井智さ角湖音真有千夏暉果翔晴富直貫麗美友難真千小彗天秀千来媛有茂紀裕裕彩美早楽美空紗里舜圭曉杏奈由由 ち内実陽杏子え地	△

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。













